

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500147		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	滝川市屯田町西1丁目2番8号		
自己評価作成日	平成26年 2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個性や認知症の状態及び種類、身体状況等を全職員が把握し、介護理念でもある「人は人として人らしく」をモットーに、他職種が連携しあい利用者様を支援しています。利用者様、ご家族様、職員、地域等が一丸となり、何事にも柔軟に取り組み対応しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=tue&JigyosyoCd=0177500147-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0177500147-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 26年 3月 11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

滝川市の郊外に位置するこのホームは、以前の場所から移転して4年が経過しています。事業を開始して14年になり、地域密着型サービスとしての地域連携については特に力を入れてきました。移転してからの連携も構築し、地域と共に暮らす関係作りを大切にしています。地域の子供達とラジオ体操や花火を楽しんだり、夏に開催の「やすらぎ祭り」は地域の年中行事として位置づけられ300名の参加があり、利用者・家族と一緒に夏を満喫し楽しんでいます。来訪者に対して、利用者は満面の笑みで迎えてくれ、温かい対応が続けられていると感じ取る事が出来ます。「人を人として人らしく・・・」の理念が職員の心に沁み、自然の姿が当たり前と感じられる支援をしています。地域との多くの関わりや利用者の生活の尊重、職員の家庭的な関わり、重度の利用者の受け入れ、終末期ケアの対応等すべてにおいて柔軟な対応を心掛けており、地域からの信頼が厚いグループホームとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が介護理念を理解し、カンファレンス等で再確認しながら共有し、実践に繋げています。地域密着型サービスの意義、介護理念等が理解できない職員には研修やミニ会議を開き理解して頂けるように働きかけています。	このグループホームを開設した時に作成された理念は、実情に合わせて変更し現在に至っています。ホームの至る所に掲示され、職員は常に確認しています。「人を人として人らしく・・・」あたり前の姿として捉え、利用者の気持ちを尊重し、寄り添うケアを実践しています	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や作業には積極的に参加しています。また、施設行事には町内会から参加して頂き、地域の一員として社会活動をしております。	地域との繋がりは、立地や環境からみても利用者に潤いや心の豊かさを与えるものであり、様々な交流が行なわれています。地域にとっても夏に開催されるやすらぎ祭りや七夕花火大会は、年中のイベントとして大きな楽しみの機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や施設行事にお互い参加しあいながら、認知症の人への理解やふれあいを実践しています。また、開かれたグループホームを目指し、地域の人々が気軽に遊びに来る事が出来るよう行事等を通じて実践しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しております。現在状況や今後の予定等を話し合い、運営推進委員の意見や質問等に耳を傾けサービス向上に活かしております。	地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員及び家族の方が参加して定例開催が続いています。時期にあった議題を選択し、専門の知識を持った方が講師になり、見聞を広げる機会となっています。出席者からは意見や要望、研修の感想が聞かれ、意見を運営やサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例やコスモスでの取り組み等、市の包括支援センターに相談し、密に連絡を取り合う事により、利用者様のサービス向上に努めております。	ホームの担当者は、行政の窓口へ直接出向き相談や手続き、情報交換を行ない信頼関係を築いています。市主催のケアマネージャーを中心とした地域ケア会議が開かれ、他事業所との交流や情報交換の場となっています。管理者は道GH協議会の代表でもあり、研修の運営や講師の依頼も多くあり、福祉サービスの向上に貢献しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や高齢者虐待防止委員会を設置し、ケアの実践に役立てております。また、内部研修、外部研修の参加を積極的に職員へ促し知識を深めています。	新人採用時研修、内・外の研修及び勉強会を積極的に行なう事で職員の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めています。「自分が受けたらどう思うか」と、受け身の気持ちを大切に指導しています。業務の中で気が付いた時は直ちに注意し、全職員の周知の為会議の中でも確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、事業所全体で虐待防止に努めています。また、市内外の高齢者虐待防止研修会にも積極的に参加し虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある利用者様やご家族様がいない利用者様には他職種連携し、成年後見人制度の利用を活用し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様と面談の機会をもち十分な説明と理解を求めた上で納得して頂き、契約及び解約をしております。また、疑問点等はいつでも応えられる旨を説明し安心して頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に話し合う機会を設け、ご意見やご要望を聞き運営に反映させるように努めています。	家族とは何でも言い合える関係が築かれています。面会時には積極的に声かけする事で、日常の様子や受診の情報を細かく伝えていきます。計画作成時や、モニタリングの時にも直接質問状を用意し、気兼ねなく記入出来る仕組みを作り、家族からは要望や意見が書かれ戻ってきています。毎月発行される「コスモス便り」は多彩な写真や様子が伝えられ、家族から好評となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスの時間帯を利用したり、個別に意見や提案を聞き、運営に反映させる事が出来るように努めています。	毎月開催の会議では、担当者から利用者の状況が報告され、ケア内容や次の計画作成に反映しています。行事やレクリエーションの提案が職員からも出され、実践に繋げています。外部研修への参加や資格取得についての応援も行なわれ、介護福祉士の受験対策として実技試験の講習もしています。退職した職員が実技講習と一緒に参加し、合格に向けて応援もしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況や能力、勤務状況を把握し、また、本人からも職場環境や条件等の意見や要望を聞き取り、働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内外の研修への参加を促し、参加したい職員がいれば勤務時間の調整、費用負担等を検討しています。また、内部研修を充実させ、職員一人一人のスキルアップを目指し、サービス向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との職員交換研修を実施したり、外部研修でのグループワークや懇親会等で親睦を深め、意見交換等行い他施設との連携を強化しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容と傾聴を心掛け、馴染みの関係づくりを行っています。言葉でうまく伝えられない方もいらっしゃるので表情や行動・態度から不安要素を探し支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学→契約までの間で、ご家族様の要望や不安を十分に時間をかけ聞き取るようにしています。言葉に出来ない事もあると思いますので要望書を送付し、意見を記入して頂くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様からニーズを聞き取り、また、表情や態度・行動から感じ取り、ニーズの優先順位を見極め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が介護理念を理解し「共生・共存」に努めています。利用者様と一緒に過ごす時間を大切に、家族のような関係を築くよう心掛け支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と密に連絡を取り合いながら、利用者様支援に努めています。四季折々の行事や誕生会・お祭り等、ご家族様の時間が許す限りの範囲の中で参加して頂き、連携しながら、ご本人様を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様からの情報をもとに出来る範囲で支援しております。	今までの生活の関わりが途絶える事のないように好きな本を探しに図書館に行ったり、理美容の継続、正月のしめ縄作り、誕生日を家族と共に祝う等その人らしい生活の継続の支援となっています。以前の職場のOB会に誘ってくれたり、教え子が会いに来てくれたりと当たり前な生活を継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入し、利用者様同士が楽しんでレクリエーションや談話を行える環境作りを実施しております。笑顔が多い生活を支援するよう努めております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事の案内等を送付し参加を呼びかけています。その際に、必要に応じ利用者様の状態やご家族様の近状を聞き、継続し関係を保っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、ご本人様の意向や要望を聞き取り、カンファレンス等で職員間で話し合い把握し支援しております。言葉が不自由な方、思いを伝えられない方は、ご家族様の意向やご本人様の表情や行動等を感じ支援しております。	ホーム独自の情報収集シートを活用し、細かくその人の生活や歴史を記入しています。個人シートは定期的、状況に変化が見られた時に再記入し、変化の状態が解るようにしています。その時の状態に合わせた対応が出来るように、家族や職員と十分に話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、ご本人様やご家族様、友人等の情報や生活歴を聞き取り、ファイルに綴り、職員間で把握しサービスに役立てております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々記録を残し、カンファレンスで話し合うようにしています。ご本人様らしい生活が出来る環境作りに努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から要望を聞き取り(感じ取り)他職種連携しながら、ニーズに沿った介護計画を立てるように努めています。	担当制とする事で、職員は責任を持って毎月モニタリングを行ない会議で報告しています。家族に対しては直接書面で報告し希望や要望を記入してもらうなど家族の参加を大切にしています。毎日の記録も一人ひとりに合わせた書式としており、その日の様子や気付いた事を丁寧に記載する事で評価に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が把握できるように、個別記録を工夫し実践している。記録した内容はカンファレンス等で話し合い、その都度、介護計画の見直しや対応の仕方等を検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様と密にコミュニケーションをとり、常にニーズを把握するように努め、突然の事案も柔軟に対応できるようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様、市役所の方々、地域の方々等、運営推進委員になって頂き、ご本人様らしい生活が送れるように社会資源を活用しながら支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様とかかりつけ医との関係及び事業所との関係を密にし、小さな事案でも相談しながら、医師・看護師と連携し、適切な医療が受けられるように支援しています。	利用開始前からのかかりつけ医を基本的に継続しています。本人と家族の要望で協力医への受診となる方もいます。受診にはホームの看護師が同行し、医師への報告、受診内容を家族に伝えています。入居しても利用者が安心して適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報交換、情報の共有化を常に行っています。受診時等には受診報告を記録して頂き、全職員が把握出来るように工夫し、適切な受信や看護を受けられるように支援しております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医師や病棟看護師に情報を渡し、退院時には退院調整会議を開いて、ご本人様が安心して生活できるように支援しております。また、病院関係者との情報交換も行い、普段から関係づくりに努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様、医師、看護師、職員等、チームで支援しております。説明と同意を繰り返し行う事により信頼関係を構築し、ご本人様を最大限支援しております。	ターミナルケアの経験が豊富にあり、家族の想いに応えられる体制となっています。終末期を迎えた方とは医療関係者、家族及び職員等と十分に話し合い、関係書類の説明と同意を重ねる事で納得できる対応に努めています。医師とは終末期を迎える為の対応について研修や勉強会が行なわれ職員の知識を高めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に緊急時対応の確認をし、必要があれば勉強会を実施しております。また、消防訓練や普通救命講習を定期的の実施し受講するようにしております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々との協力体制を強化しております。消防訓練は定期的に行い、その他に避難方法・避難経路の確認のため図上訓練を実施し、全職員が身につける事が出来るように訓練しております。	年2回消防や地域の方の協力を得て、避難訓練を行っています。緊急連絡網では地域への発信もあり、ホームとしては力強い協力体制となっています。今年も突発の避難訓練を行ない、市や消防の協力も仰ぎ、様々な反省点を活かし今後につなげていきたいと考えています。	地域とは密接な協力関係にあり、様々な場面で助けられています。今後はこのホームの立地から考えられる災害について対応、備えの検討を行ない、避難訓練の時に参加していない職員に情報の周知、反省点の共有を図る事で、万が一の為に備えられるよう期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活や性格、生活歴、認知症の種類等を把握し、その人に合った支援を実施しております。	掲げている理念の対応に努めています。排泄時は耳元で「そろそろいかがですか」「お手伝いお願いしますか」などと、一人ひとりの状況に応じた声かけで支援しています。入浴も同性介助とし、人格やプライバシーに配慮した支援をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様らしい生活が出来るように、声掛けの工夫をし、閉ざされた質問ばかりではなく、開かれた質問をするように努め、ご本人様が選択できるように支援しております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様へのライフスタイルを尊重し、日常生活におけるすべての事をここに合わせ対応しております。食事・入浴等の時間は決まっていません。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服やパジャマは利用者様に選択して頂き、女性利用者には、希望を聞き、行事等でお化粧を施す等の支援をしております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けは当然の事、盛り付けや色どりの工夫をして目で楽しめる食事を提供しております。職員と利用者様が一緒に調理や準備、後かたづけがスムーズに行えるようお手伝い表を作り実施しております。	業者の作成するメニューを基に食材が届き、ホームが各ユニットで工夫した食事内容となっています。行事やイベントに合わせた食事も沢山あり、職員と楽しく食べています。出来る力を発揮し、下ごしらえや準備、後片付けも手伝っています。外食の機会には特に楽しみにしています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に目標の水分量を設定しております。また、その時々々の体調により、看護師と連携しながら柔軟に栄養状況や水分量を変更し対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けを実施し、利用者様の口腔ケアに努めています。個々に合った口腔ケアを実施し、入れ歯を使用している利用者様には定期的に職員が預かり消毒をして清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄能力、排泄習慣を把握し、トイレやポータブルトイレ等を使い分けて支援しております。オムツ使用利用者にも羞恥心に配慮し対応しております。	職員は一人ひとりの排泄状況を理解し、声掛け誘導を行っています。ポータブルトイレの対応や夜間の対応も、利用者がトイレでの排泄が自分にとって大切な事を十分に理解しており、プライバシーに配慮した対応をしています。利用前の排泄状況が、大きく改善されている方も多くいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便間隔を把握し、医師・看護師と連携しながら便秘予防を実施しております。飲食物や適度な運動を取り入れ工夫する事により便秘予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定がありません。ご本人様が入りたい時に入浴して頂いております。ゆっくりとリラックスした環境作りに努め、羞恥心や自尊心に配慮し安全を確保するようにしております。	曜日や時間、回数も決めず、一人ひとりが希望する対応をしています。入浴が大好きで、長時間入浴する方等職員がはらはらする場面もありますが、体調を確認し声掛けする事で入浴を楽しんでもらっています。同性介助とし、安心して楽しく入浴出来るように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人のライフスタイルに合わせて対応させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師と連携しながら、全職員が把握できるようにカンファレンス等で話し合い、理解できるように努めています。服薬に関しては、確認を怠らないように注意して支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割支援に関しては、女性利用者様同士のトラブルを抑えるためにお手伝い表で対応しております。また、外出や外食等の支援を行い、利用者様が施設内に閉じこもる事がないように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の意向を尊重し、要望を聞きながら外出支援を行っております。個々の外出支援、施設行事として遠出をする等、利用者様が楽しみと感られるような支援を行っております。	要望に応え買い物やドライブ、近隣の散策や日光浴に出かけています。夏場には地域の子供達も参加し、ラジオ体操が行なわれ利用者も一緒に体操しています。外出行事はランフェスタ、花見、リンゴ狩り、トトロ峠へドライブ、スポーツフェスタ、ローズガーデン等色々な場所へ出かけ、季節を楽しむ機会としています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、利用者様の能力に応じてお金を所持して頂きここに買い物支援を実施しております。また、施設横に自動販売機を設置し、希望者には購入して頂けるような環境作りを行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の意向や、職員の声掛け促しにより支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる工夫したり、利用者様の作品を展示する等の配慮を行っております。また、音や光、温度や湿度等には細心の注意を払い対応しております。	ホールの厨房からはホーム内が見渡すことができます。リビングでは利用者が思い思いの場所で寛いでいます。食卓テーブルは数カ所に分かれ、好きな場所・利用者にあった時間で食事を楽しんでいます。季節を感じる事が出来る装飾が施され、毎月職員と一緒に利用者も参加し、掲示を手伝っています。室温や湿度を利用者に配慮した設定とし、心地よく過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内外にベンチや椅子を置いて、利用者様が自由に過ごす事が出来るように支援しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人様、ご家族様にお話しし、以前から使用している使いなれた物を持って来ていただいております。「馴染みのもの」を使用する事により環境の変化があっても安心して過ごす事が出来るように支援しております。	各ユニットは畳とフローリングの居室となっております。各居室毎に表札を設置することで「自分の家」と理解しています。広い収納の中には衣類や寝具、仏壇・お気に入りの家具が沢山持ち込まれ、その人らしい空間となっております。命日には僧侶のお参りもあり、以前と変わらない生活が続けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや長い廊下での歩行訓練、歩行バーでの立ち上がり訓練等が出来るように残存機能の活用と自立に向けた支援を積極的に実施しております。		